

一般社団法人日本写真学会
第11回 定時社員総会

日 時：2022年（令和4年）5月19日（木）15：00～16：00
会 場：日本写真学会 事務局
〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 東京工芸大内8号館
1F マルチスペース 8103

【第1号議案】2021（令和3）年度事業報告（案）

1. 学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第5条（1））
 - 1-1 学会誌の刊行に関する事項
 - 1) 発行回数 6回 日写誌84巻2号～4号, 85巻1号, BSPIJ vol.31-1, vol.31-2
 - 2) 総頁数 416頁（日写誌）, 8頁（英文誌）
 - 3) 特集
飛跡を追う（84巻2号～4号, 85巻1号）
2020年のカメラ（84巻3号）
2020年の写真の進歩（84巻3号）
スマートフォンと写真（83巻4号, 85巻1号）
 - 4) 主要掲載事項および件数（Web 英文論文誌 BSPIJ を含む）

一般論文（特集論文含む）3件	口絵	4件	
ノートおよびレター	0件	紹介（写真のある美術館）2件	
技術レポート	0件	追悼	2件
講座（ワンポイント）	0件	書評	1件
解説	25件	会報	4件
写真史	4件	その他（受賞者案内）	1件
 - 5) 科学技術振興機構の電子アーカイブ J-STAGE に、発行後1年経過した論文・解説等の記事を掲載した。
 2. 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条（2））
 - 2-1 研究発表会、講演会などの実施
 - 1) 日本写真学会 天体写真個展 オンライン 講演会
一山野泰照 氏個展『虚空の如くなる心』オンライン解説付き鑑賞会—
【日 時】：2021年3月26日（金）
【主 催】：一般社団法人日本写真学会
【会 場】：オンラインイベント
【参加条件】 日本写真学会会員限定
【プログラム】
 1. 個展の内容がイメージできる静止画 and/or 動画配信
 2. 山野泰照氏の解説付きの作品紹介
*本講演会に向けて作品内容（タイトル, 撮影条件, 苦労した事など）の解説をします。
 3. 質疑 *個展および作品などについての山野氏および参加者間での質疑や意見交換
進行：水口 淳（カメラ・写真技術解説家）
参加者：32名
 - 2) 2021年度 日本写真学会オンライン年次大会
【日 時】：2021年7月21日（水）～7月22日（木：祝日）
【会 場】：オンライン開催
【主 催】：一般社団法人 日本写真学会
【プログラム】
第1日 7月21日（水）
オーラルセッション
 - I -01 液晶性を活用した高速製膜と有機トランジスタ特性
飯野 裕明, Wu Hao, 近藤光一郎, 半那純一（東京工業大）
 - I -02 全水光分解用光触媒 Z スキームシステム：固体物性的評価
谷 忠昭¹, 西見 大成², 内田 孝幸³, 山口 友一⁴, 工藤 昭彦⁴（¹日本写真学会, ²人工光合成化学プロセス技術研究組合, ³東京工芸大, ⁴東京理科大）

- I -03 インクジェットプリンターを用いた均質放射線源の作製（2）放射能測定（展示レビュー有）
久下 謙一¹, 鈴木 弘行¹, 岩本 康平²（¹千葉大, ²NEDO）
 - I -04 暗号化画像に対する情報埋込み技術（受賞講演）
今泉 祥子（千葉大）
 - I -05 カメラ技術の歴史（依頼講演）
豊田 堅二
 - I -06 マルチスペクトルカメラを搭載した UAV で撮影した画像の日照補正とインデックスマッピング
内田 孝幸（東京工芸大）
 - I -07 焦点距離 2000 mm 相当での手持ち撮影を可能にする超望遠 PRO レンズ - M.ZUIKO DIGITAL ED 150-400 mm F4.5 TC1.25x IS PRO の開発 -（受賞講演）
村山 恭二, 田嶋 智之, 細谷 剛（OM デジタルソリューションズ）
 - I -08 銀塩写真技術の応用事例（受賞講演）中川 邦弘（三菱製紙）
 - I -09 4億画素「ピクセルシフトマルチショット」技術の開発 - 文化財デジタルアーカイブへの貢献（受賞・講演）
田中 康一¹, 楠本 修也¹, 水澤 哲也²（¹富士フイルム, ²富士フイルムソフトウェア）
 - I -10 原子核乾板デジタルアーカイブス計画 - DONUT データの紹介 -（展示レビュー有）
児玉 康一¹, 市村 雅一², 中村 光廣³（¹愛知教育大, ²弘前大, ³名古屋大）
 - I -11 宇宙環境における放射線被ばくと防護（依頼講演）
小平 聡（量子科学技術研究開発機構）
 - I -12 闇夜の素粒子研究（依頼講演）
中村 光廣（名古屋大）
 - I -13 原子核乾板を用いたミュオグラフィ：山岳氷河の新しい観測窓
西山 竜一¹, 有賀 智子², 有賀 昭貴³（¹東京大, ²九州大, ³千葉大）
 - I -14 原子核乳剤の潜像退行の抑制 -ゼラチンとキレート剤の効果-
谷 忠昭¹, 西尾 晃², 内田 孝幸³, 森島 邦博²（¹日本写真学会, ²名古屋大, ³東京工芸大）
 - I -15 素粒子検出用新規原子核乾板のための平板状ハロゲン化銀結晶の開発
宮田 美悠¹, 久下 謙一², 大関 勝久¹, 福田 努¹（¹名古屋大, ²千葉大）
 - I -16 長期安定性に優れた原子核乾板の開発（受賞・依頼講演）
西尾 晃（名古屋大）
- ポスターセッション
- P-1 ポリシクロデキストリン保護銀ナノ粒子 / カーボンナノチューブによる複合熱電変換材料の創製
岩本 龍之介, 草田 茂吉, 秦 慎一, 白石 幸英（山陽小野田市立山口東京理科大）
 - P-2 金属元素を含まない物質からの金属光沢 - 偏光反射特性に及ぼす色素の分子構造の影響 -
柿拓馬 山田勝実（東京工芸大）
 - P-3 GRAINE 科学観測を実現する原子核乾板時刻付与機構の開発
小田 美由紀¹, 青木 茂樹¹, 東 崇史¹, 加藤 拓海¹, 高橋 覚¹, 山下 真優¹, GRAINE collaboration²（¹神戸大, ²愛知教育大, ISAS/JAXA, 岡山理科大, 岐阜大, 神戸大, 名古屋大）
 - P-4 GRAINE 次期気球実験に向けた姿勢監視スターカメラ

- の開発
加藤 拓海¹, 青木 茂樹¹, 東 崇史¹, 小田 美由紀¹,
高橋 覚¹, 山下 真優¹, GRAINE collaboration²
(¹ 神戸大, ² 愛知教育大, ISAS/JAXA, 岡山理科大,
岐阜大, 神戸大, 名古屋大)
- P-5 次期原子核乾板実験のための自動フィルム塗布装置の開
発現状 (2)
六條 宏紀¹, 杉村 昂¹, 林 熙崇¹, 山本 紗矢²,
中村 悠哉¹, 白田 育矢¹, 中村 光廣¹ (¹ 名古屋大,
² 岡山理科大)
- 第2日 7月22日 (木)
オーラルセッション
- II -01 ダブルハイパー核を用いた2重ストレンジネス相互作用
の研究 (受賞講演)
吉本 雅浩 (岐阜大)
- II -02 原子核乾板望遠鏡気球実験による宇宙ガンマ線精密観
測 GRAINE ~ 2018年気球実験最新結果及び科学観測
実験展望~ (依頼講演) (展示レビュー有)
高橋 覚¹, GRAINE collaboration² (¹ 神戸大, ² 愛知教
育大, ISAS/JAXA, 岡山理科大, 岐阜大, 神戸大, 名
古屋大)
- II -03 CERN-LHC での Forward Physics Facility 構想
有賀 昭貴¹, 有賀 智子², 稲田 知大³, 中野 敏行⁴,
音野 瑛俊², 六條 宏紀⁴, 佐藤 修⁴, 田窪 洋介⁵
(¹ 千葉大, ² 九州大, ³ Tsinghua University, ⁴ 名古屋大,
⁵ KEK)
- II -04 機械学習を用いた原子核乾板中事象の検出
笠置 歩¹², Enqiang Liul³⁴, 中川 真菜美¹, 江川
弘行¹, 吉田 純也¹⁵, Wenbo Dou¹⁶, Abdul
Muneen¹⁷, 仲澤 和馬², Christophe Rappold⁸⁹, 齋藤
奈美¹, 齋藤 武彦^{10,11}, 瀧 雅人¹², 田中 良樹¹,
He Wang¹, 吉本 雅浩¹³ (¹ 理研 HENP, ² 岐阜大,
³ IMP, ⁴ 中国科学院, ⁵ 東北大, ⁶ 埼玉大, ⁷ GIK, ⁸ IEM,
⁹ CSIC, ¹⁰ GSI, ¹¹ 蘭州大, ¹² 立教大, ¹³ 理研仁科センター)
- II -05 Study of Energy Errors Concerning to the Emulsion
Density Error and the Range Straggling
Phyo Myat Lin, 仲澤 和馬, Aung Nay Lin Nyaw (Gifu
University)
- II -06 ダブルハイパー核探査のための画像解析手法 (DVS)
の開発と評価
西村 直己¹, 仲澤 和馬¹, 吉本 雅浩², 笠置 歩¹²,
林 航志¹, 小林 梨沙¹, 久保 伊吹¹, 島村 明慶¹
(¹ 岐阜大, ² 理化学研究所)
- II -07 Double lambda hypernuclei detected in J-PARC E07
experiment with nuclear-emulsion detector
Aung Nay Lin Nyaw¹, Kazuma NAKAZAWA¹, Masahi-
ro YOSHIMOTO², Ayumi KASAGI¹², Phyo Myat Lin¹,
Naoki NISHIMURA¹, Koji HAYASHI¹ (¹ Gifu Universi-
ty, ² RIKEN)
- II -08 原子核乾板の高位置分解能を利用したDsTau 実験での
物理解析 (展示レビュー有)
佐藤 修¹, 中野 敏行¹, 吉本 雅浩², 有賀 智子³,
有賀 昭貴⁴ (¹ 名古屋大, ² 理化学研究所, ³ 九州大,
⁴ 千葉大)
- II -09 NINJA 実験におけるニュートリノ反応解析の現状と展
望
霞 綺花¹, 福田 努¹, 鈴木 陽介¹, 河原 宏晃¹,
NINJA コラボレーター² (¹ 名古屋大, ² 京都大, 日本大,
横浜国立大, 東邦大, 東京大, 神戸大, 理化学研究所)
- II -10 高分解能原子核乾板を用いた重力場中で量子化した超冷
中性子の位置分布測定
武藤 直人¹, Hartmut ABELE², 有賀 智子³, 日野
正裕⁴, 広田 克也¹⁵, 市川 豪⁵⁶, Tobias JENKE⁷,
河原 宏晃¹, 川崎 真介⁵, 北口 雅暁¹, Jakob
MICKO⁷, 三島 賢二⁵, 長縄 直崇¹, 中村 光廣¹,
Stéphanie ROCCIA⁶, 佐藤 修¹, René I. P. SEDMIK²,
關 義親⁸, 清水 裕彦¹⁵, 多田 智美¹, 梅本 篤宏¹⁹
(¹ 名古屋大, ² ウィーン工科大, ³ 九州大, ⁴ 京都大,
⁵ 高エネルギー加速器研究機構, ⁶ 大強度陽子加速器施設,
⁷ ラウエランジュバン研究所, ⁸ 日本原子力研究開発機構,
⁹ 筑波大)
- 展示レビュー
- T-1 写真の保存修復に携わって
白岩 洋子 (白岩修復工房)
- T-2 東京都写真美術館における写真保存の実際
山口 孝子 (東京都写真美術館)
- T-3 写真とだまし絵 - 「画像からくり」口絵連載より
桑山 哲郎 (3D フォーラム)
- T-4 写真で見る 100 年前の山口県防府: 行啓記念写真帖より
白石 幸英¹, 白石 権四郎² (¹ 山陽小野田市立山口東
京理科大, ² 写真家)
- T-5 【OM-D 鳥研】野鳥写真における撮影マナーの重要性と
カメラ技術について
伊藤 理紗 (OM-D 鳥研)
- T-6 インスタレーション作品展示による写真教育
塩崎 由美子 (日本写真芸術専門学校)
- T-7 用語に関する一考察 「ミラーレス」と「一眼」
吉田 英明 (OM デジタルソリューションズ)
- T-8 ニコンミュージアムご案内 (展示物解説など)
長田 友幸, 北村 友香 (ニコンミュージアム)
- T-9 医療・健康社会における新しいイメージング FacialEx-
pression の活用動向
中野 寧 (日本写真学会)
- T-10 色の違いを上手に捉える医療技術
羽石 秀昭 (千葉大)
- T-11 原子核乾板デジタルアーカイブス計画 - DONUT
データの紹介 -
児玉 康一¹, 市村 雅一², 中村 光廣³ (¹ 愛知教育大,
² 弘前大, ³ 名古屋大)
- T-12 宇宙線イメージング研究室 (μ 研)
森島 邦博, 北川 暢子, 西尾 晃, 久野 光慧, 眞部
祐太 (名古屋大)
- T-13 原子核乾板を用いた加速器ニュートリノ実験 NINJA
稲元 柊¹, 福田 努¹, NINJA コラボレーター² (¹ 名
古屋大, ² 京都大, 日本大, 横浜国立大, 東邦大, 東京大,
神戸大, 理化学研究所)
- T-14 原子核乾板の高位置分解能を利用したDsTau 実験での
物理解析
佐藤 修¹, 中野 敏行¹, 吉本 雅浩², 有賀 智子³,
有賀 昭貴⁴ (¹ 名古屋大, ² 理化学研究所, ³ 九州大,
⁴ 千葉大)
- T-15 ミュオグラフィ: 宇宙線ミュオンを用いて火山内部を
可視化する
宮本 成悟 (東京大)
- T-16 原子核乾板望遠鏡気球実験による宇宙ガンマ線精密観測
GRAINE ~ 2018年気球実験最新結果及び科学観測実
験展望~
高橋 覚¹, GRAINE collaboration² (¹ 神戸大, ² 愛知教
育大, ISAS/JAXA, 岡山理科大, 岐阜大, 神戸大, 名
古屋大)
- T-17 放射線治療のための3次元ゲル線量計の開発
林 慎一郎 (広島国際大)
- T-18 インクジェットプリンターを用いた均質放射線線源の作
製 (2) 放射能測定
久下 謙一¹, 鈴木 弘行¹, 岩本 康平² (¹ 千葉大,
² NEDO)

T-19 液晶—高分子—ナノ粒子複合材料のレーザースペックルノイズ低減デバイスへの応用
 穂本 光弘¹, 福田 枝里子² (¹山口東京理科大, ²九州産業大)

T-20 放射線飛跡の化学的・物理的検出器: xyz 検出器を日指して
 久下 謙一 (千葉大)

オールラセッション

II -11 「写真の大衆化」を実現した技術革新史 (依頼講演)
 高田 俊二 (千葉大)

II -12 小説「夜明け前」と歴史写真で迎える開港場「横浜」
 高田 俊二 (千葉大)

II -13 1970年代におけるアメリカ写真の日本での紹介に関する考察
 國田 佳恵

II -14 南方熊楠の環境保護運動と写真資料 (受賞・依頼講演)
 岩崎 仁¹, 細矢 剛² (¹日本写真学会フェロー, ²国立科学博物館)

II -15 私の写真研究—偶然と必然 (受賞講演)
 白山 真理 (一般財団法人日本カメラ財団)

II -16 私の研究歴 60年: 写真科学とともに (受賞講演)
 谷 忠昭 (日本写真学会)

【参加者】: 90名

3) ICAI2021 (画像関連学会連合会主催)

ICAI (International Conference on Advanced Imaging) 2021

【日時】2021年10月4日—10月8日

【会場】オンライン

【写真学会会員発表状況】

Table 1 日本写真学会会員によるオールラ発表一覧

Session	Author	Title
Input and Output Imaging	Hiroaki Iino, Koichi Kondo and Jun-Ichi Hanna	Fast speed fabrication of patterned organic semiconductor thin films by blade coating using liquid crystallinity and their transistor characteristics
	Hideaki Yoshida	Renewal of the Camera resolution measurement software “HYRes”
	Takayuki Uchida	Study of the correction and effect of the spectrum of the light source on the data acquired by the UAV multispectral camera
	Yoshinori Matsuzawa	Trends and Future in the camera industry and its technologies
Radiation Track Imaging	Seigo Miyamoto, Shogo Nagahara, Kunihiko Morishima, Toshiyuki Nakano, Masato Koyama and Yusuke Suzuki	Three-dimensional density structure imaging of the Izu-Omuoyama volcano by multi-directional muography
	Hitoshi Oshima, Hiroshi Shibuya, Satoru Ogawa, Tomokazu Matsuo, Yusuke Morimoto, Tsutomu Fukuda, Osamu Sato, Shigeki Aoki, Tsuyoshi Nakaya, Tatsuya Kikawa and Yoshinari Hayato	Measurement of neutrino charged-current interactions on iron using a nuclear emulsion detector in the NINJA experiment
	Tomokazu Matsuo and Ninja Collaboration	Current status and future plan of NINJA experiment at J-PARC
	Kana Saeki, Tatsuhiro Naka, Takuya Shiraishi, Yasushi Hoshino, Kenichi Kuge, Ryuta Kobayashi, Takashi Asada, Atsuhiko Umemoto, Osamu Sato and Satoshi Kodaira	Temperature Dependence of Crystal Sensitivity of Ultra-fine-crystal Nuclear-emulsion Plate

Table 2 日本写真学会会員によるインタラクティブ発表一覧

Author	Title
Fukuro Koshiji, Yuri Yamada, Yoji Yasuda, Takayuki Uchida and Katsumi Yamada	Investigation of Radiation Efficiency of Antenna Using Transparent Conductive Thin Film
Katsumi Yamada, Fukuro Koshiji and Takayuki Uchida	Improvement in Electrochromic Stability of Conductive Polymers with Nano-Structured Electrode
Yukihide Shiraishi, Hiroya Sawai, Shinichi Hata, Shunsuke Kobayashi and Naoki Toshima	Electro-optic Properties of Liquid Crystal Devices by Doping with Supramolecule-Stabilized Nanocolloids

Table 3 ICAI2021研究発表受賞一覧

Author	Title
Seigo Miyamoto, Shogo Nagahara, Kunihiko Morishima, Toshiyuki Nakano, Masato Koyama and Yusuke Suzuki	Three-dimensional density structure imaging of the Izu-Omuoyama volcano by multi-directional muography
Kotchaporn Thangunpai, Donghao Hu and Toshiharu Enomae	Development of polycaprolactone grafted with maleic anhydride
Rina Iijima, Kyota Kamamoto and Yoshiyuki Tagawa	Ejection volume of highly viscous jets
Yukihide Shiraishi, Hiroya Sawai, Shinichi Hata, Shunsuke Kobayashi and Naoki Toshima	Electro-optic Properties of Liquid Crystal Devices by Doping with Supramolecule-Stabilized Nanocolloids

ICAI2021 研究発表受賞一覧

ベストペーパー賞 1 件：

宮本成悟氏他（東京大学）日本写真学会所属

ベストポスター賞 3 件：

白石幸英氏他（山陽小野田市立山口東京理科大学）日本写真学会所属

Kotchaporn Thangunpai, Donghao Hu and Toshiharu Enomae（筑波大学）日本印刷学会所属

Rina Iijima, Kyota Kamamoto and Yoshiyuki Tagawa（東京工芸大学）日本画像学会所属

【参加人数】主催学会別／合計

日本画像学会（ISJ）46

日本写真学会（SPIJ）15

日本印刷学会（JSPST）8

IS & T（IS&T）1

合計 70

4) 日本写真学会 第 28 回カメラ技術セミナー

【日 時】2021 年 11 月 12 日（金）9：30～18：00

【主 催】日本写真学会 カメラ技術研究会

【会 場】オンライン

【プログラム】

講演 1 M.ZUIKO DIGITAL ED 150-400 mm F4.5 TC1.25x IS PRO の開発；

村山恭二（OM デジタルソリューションズ）

講演 2 LUMIX S 70-300 mm F4.5-5.6 MACRO O.I.S. の開発

伊藤大介（パナソニック）

講演 3 ミラーレス一眼用 高倍率ズームレンズの開発

山中久幸（タムロン）

講演 4 EOS R5 防振システムの開発

木村正史（キヤノン）

講演 5 ラージフォーマットミラーレスカメラ FUJIFILM GFX100S の開発

入江史憲（富士フィルム）

講演 6 コロナ禍から未来へ・自然風景写真からの問い

GOTO AKI（写真家）

講演 7 天体望遠鏡に使われる大型自由曲面の実現手法

栗田光樹夫（京都大学）／木野勝（京都大学）

意見交換会

【参加申込方法】 イベント管理サービス Peatix

参加人数：144 名，有料参加者 116 [会員・賛助：109 名，非会員：7 名]

5) 第 41 回日本写真学会「写真好き」のための定例講演会 オンライン講演会

東京都写真美術館開催「松江泰治 マキエタ CC」展示会 担当学芸員 伊藤貴弘氏による解説と質疑付 -

【開催日時】：2021 年 11 月 30 日（火）14：00～15：30

【会 場】：オンライン イベント

【主 催】：一般社団法人日本写真学会「写真好き」のために定期講演会実行委員会

【参加条件】：日本写真学会会員限定

【プログラム】

1. 東京都写真美術館開催中の「松江泰治 マキエタ CC」の図録紹介と解説

2. 担当学芸員 伊藤 貴弘氏による解説と質疑

参加者：16 名

6) 令和 3 年度 画像保存セミナー

【日 時】：2021 年 11 月 19 日（金）9 時 55 分～16 時 15 分

【主 催】：日本写真学会 画像保存セミナー実行委員会

【会 場】：オンライン開催

* 質疑応答は、各講演時間内の動画講演終了時に Web 会議ツール（Zoom）で実施

アーカイブ配信 視聴可能期間（限定配信）：2021 年 11 月

20 日（土）～12 月 17 日（金）（予定）

【セミナープログラム】

講演 1. 銀塩カラー印画紙の技術史—画像保存性の観点で—
梅本真（フジフィルムスクエア）

講演 2. 深層学習による白黒写真の自動カラー化

飯塚里志（筑波大学システム情報系 / 人工知能科学センター）

講演 3. 日常の記録と記憶—オーストリアにおけるホームムービー収集の事例を中心に

常石史子（獨協大学）

講演 4. 紙資料をデジタル化する際の入力装置（スキャナ，デジタルカメラ）の特性，特徴

綿引雅俊（株式会社インフォーマージュ）

講演 5. 写真プリントの画像保存性評価法に関する ISO/TC42 の標準化状況と LED 光源下での光褪色評価法の検討

石塚弘（富士フィルムホールディングス株式会社）

【参加者】；参加人数：79 名

7) 第 17 回日本写真学会光機能性材料オンラインセミナー

「グリーンイノベーション—写真から光エネルギー変換へ—」

【日 時】：2021 年 12 月 1 日（水）9 時 30 分～16 時 00 分

【会 場】：オンライン開催

【主 催】：日本写真学会 光機能性材料研究会

【セミナープログラム】

基調講演 色素増感太陽電池からハロゲン化ペロブスカイト太陽電池へ—最近の研究動向と今後の展望—

早瀬修二（電気通信大学）

講演 1 写真感光材料から光エネルギー変換へ

谷忠昭（日本写真学会）

講演 2 高分子太陽電池の高効率化を実現する新戦略

大北 英生（京都大学）

講演 3 固体型色素増感太陽電池の開発：室内光高出力化と意匠性付与

田中裕二（株式会社リコー）

講演 4 光触媒を利用した CO₂ フリー水素の製造

～NEDO 人工光合成プロジェクトの研究成果と社会実装への道筋～

西見大成（人工光合成化学プロセス技術研究組合）

【参加者数】；一般 57 名，学生（無料）72 名 計 127 名

8) 第 42 回日本写真学会「写真好き」のための定例講演会 オンライン講演会

神奈川県立近代美術館 鎌倉別館 「フィリアー 今 道子」写真展

【日 時】2021 年 12 月 16 日（木）13：30～17：00

【会 場】：神奈川県立近代美術館葉山館 及び 鎌倉別館

【主 催】：一般社団法人日本写真学会「写真好き」のために定期講演会実行委員会

【参加条件】：日本写真学会会員限定

【プログラム】

1. 神奈川県立近代美術館葉山館「矢萩喜從朗展」鑑賞

2. 神奈川県立近代美術館葉山館講演会

神奈川県立近代美術館水沢館長，朝木学芸員

3. 記念撮影

4. 神奈川県立近代美術館鎌倉別館へ移動

5. 神奈川県立近代美術館鎌倉別館「フィリアー 今 道子」展 鑑賞及び今先生による解説，質疑応答

6. 記念撮影

参加人員 11 名

3-1 研究及び調査の実施（定款第 5 条（3））

委員会組織の拡充

2021 年度はコロナ禍 2 年目にあり，リアルな会合は引き続き開催は厳しい環境にあった。その中で画像保存部会，光機能材料研究会，科学写真研究会，写真好きのための定例講演会などは各部会・委員会の独自にフォーカスしたテーマを掲げ，活動を維持した。一方活動が停滞気味の委員会については，今年度より，学会の中でのテーマ領域の見直しを計り，学会創立

100周年の2025年を目途に委員会組織の拡充改編を目指す。今年度はその委員会組織の拡充を見据えて、学術領域の見直しを活動の1期と位置付け、活動を開始した。具体的な活動の成果の一部は学会誌・年次大会等で順次紹介報告する。

3-2 技術委員会

技術委員会の各組織は、以下のような活動を行った。

【画像入出力部会】

・画像入出力研究会

本年度は研究会としての活動は無かった。

・カメラ技術研究会

8回の研究会をオンラインで開催した。11月12日に第28回カメラ技術セミナーをオンラインで開催した。学会誌での特集に協力した。

・表現と技術研究会

本年度は研究会としての活動は無かった。

【アンビエント画像部会】

本年度は部会としての活動は無かった。部会メンバーから、学会誌への投稿や年次大会での発表がなされた。

【医用画像部会】

・医用画像研究会

メディカルイメージング連合フォーラム2022(委員長本谷秀堅(名工大) 副委員長羽石秀昭(千葉大))

副委員長北坂孝幸(愛知工大)、電子情報通信学会医用画像研究会に日本写真学会は共催。オンライン開催として2022年1月25-27日に実施された。

2021年年次大会展示レビューでは、羽石秀昭(千葉大)「色の違いを上手に捉える医療技術」と中野寧(コニカミノルタ科学技術振興財団)「医療・健康社会における新しいイメージング Facial Expression の活用動向」の2件の発表があった。今年度からは体や心の健康という領域でのイメージングにフォーカスしていく。

【画像保存部会】

年次大会、秋季大会の企画・運営に参加した。また、画像保存セミナー(画像保存研究会およびデジタルアーカイブ研究会共催)は令和3年11月19日Web開催、11月20日~12月17日まで講演の動画を公開した。

・画像保存研究会

令和3年度画像保存セミナー実行委員会に参画し、セミナーの企画・運営を行った。

・デジタルアーカイブ研究会

2021年6月30日にキオクシア(株)と半導体メディアに関する勉強会を行った。(株)インフォマージュ協力によるカーマナーズ管理関連のデジタルアーカイブワークショップを企画したがコロナ禍により延期した。令和2年度画像保存セミナー実行委員会に参画し、セミナーの企画・運営を行った。

【アンビエント技術部会】

・アンビエント技術研究会

研究会発足時から取組んでいたプリンテッドエレクトロニクスの材料およびプロセスの技術者での議論を行い、その役割を果たして来た。このアンビエント研究会を礎として広い産業用途と学術領域の発展のためには新たな取り組みが必要となり、写真学会材料系研究会の今後の方向性についてアンビエント技術研究会主要メンバー(半那、飯野、白石、宮本、森島、中野会長、山岸事務局長)で2021年3月から19回にわたり、議論を行った。この中で、「イメージング」の現代技術での再定義を行ない、『情報像』に関する現在から未来に向けた普遍的な定義・総説を検討しており、今後の学会材料系の向かうべき方向性を定める予定である。イメージングの新規領域に関する具体的な活動は2022年にスタートを行う予定である。

・光機能性材料研究会

12月1日に、グリーンイノベーションと題するオンラインセミナーを開催し、次世代太陽電池ならびに人工光合成による水素製造技術に関して活発な議論を行った。オンラインでのメ

リットを活かし、関連する研究室への積極的な勧誘により、学生の参加が大幅に増加した(今回88名、前回0名)。若い世代に対して将来の社会課題と日本写真学会のこれまでの取り組みが密接に関係していることをアピールできた点は大変有意義であった。また、本セミナーの内容に基づいて日本写真学会誌の特集号を発行した。

【科学写真研究会】

・オンラインで行われた年次大会・ICAI2021での原子核乾板に関する研究発表の勧誘で、この分野の拡大を図った。年次大会では口頭とポスター発表で合わせて21件の発表が得られた。ICAI2021は新型コロナウイルスの影響で縮小されたが、4件の発表を得て、このうちの1件がベストペーパー賞に選ばれた。学会誌への投稿や解説執筆を勧誘し、日本写真学会誌「飛跡を追う」の連載特集を企画して、解説記事4件と投稿論文2件の掲載を得た。

【天体写真研究会】

・2021年度は、2020年度に計画していた第8回研究会および第9回研究会の内容と追加の見学会を新型コロナウイルス感染状況と同防止規制が撤廃され次第の再開を目指していたが、新型コロナウイルス感染リスクが続いたため、実質的な研究会活動は出来なかった。

【写真史研究会】

・主査不在(人選検討中)の状況下での新型コロナウイルス感染拡大の為、活動が出来なかった。

【教育への写真応用研究会】

・新柄コロナウイルス感染拡大の為、活動が出来なかった。

【リアリティー再現研究会】

スチル撮影された画像の多くは紙へのプリント出力をしていたが、ディスプレイ技術の発展に伴いプリントせずに鑑賞することが増えてきている。特に4K、8Kの解像度やHDRの高輝度に対応したディスプレイの登場によって、よりリアリティーのある鑑賞が可能になってきた昨今の状況に鑑み、リアリティー再現研究会を発足し、活動目的・活動内容の検討を行った。なお、研修会主催のセミナー・ワークショップを開く予定であったが新型コロナの影響もあり、バーチャル開催も含め計画を中止するに至った。

【進歩レビュー分科会】:

専門分野別の技術進歩年次レビュー「2020年の写真の進歩」作成を行い、学会誌(84巻3号)に特集記事として掲載した。

3-3 写真文化拡大委員会

写真文化拡大委員会の各組織は、以下のような活動を行った。

【「写真好き」のための定例講演会実行委員会】

・2021年度は、現地見学、鑑賞をメインにした「写真好き」のための定例講演会の実施が新型コロナ感染の為、困難な中、3月26日の天体写真個展「山野泰照 氏個展『虚空の如くなる心』」のオンライン解説付き鑑賞会、11月30日の第41回「写真好き」のためのオンライン講演会として東京都写真美術館開催「松江泰治 マキエタ CC」展示会の担当学芸員 伊藤貴弘氏による解説と質疑付講演会を実施した。

・新型コロナウイルス感染第5派終息時の12月16日には、リアルでの第42回「写真好き」のための定例講演会を神奈川県立近代美術館 葉山館と鎌倉別館で、「フィリアー 今道子」写真展講演会を実施出来た。

【PHOTONEXT 技術アカデミー実行委員会】

PHOTONEXT2021開催に合わせ新型コロナウイルス感染予防対策を講じた上でPHOTONEXT技術アカデミーをリアル開催した。例年通り二つのセッションで構成し、「セッションI:最新カメラシステムの技術動向」ではキヤノン、富士フイルム、OMデジタルソリューションズ各社からミラーレスカメラシステムの技術紹介の3講演、「セッションII:市場環境変化と機材状況2021」では写真業界とカメラ技術の動向、ドローンの現状と未来、最近の写真館の動向、撮影シーンに合わせた機材選びの4講演、計7講演を実施した。幅広い層に実用的な講演

演目になるよう、共催の写真感光材料工業会や後援の(株)プロメディアと連携して講演プログラムの充実を図った。

【CP + 実行委員会】

・CIPA との関係から、例年 CP + において日本写真学会ブースでの学会広報展示と学会活動の PR を行い、新規会員獲得の場としてきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、(一昨年度 CP + 2020 の中止以後、2 年連続で) CP + 2022 もオンライン開催となったため、本年度も実施出来なかった。

【写真技術セミナー実行委員会(写真好きのためのワークショップ)】

・対面ワークショップの為、写真好きのための講演・ワークショップ(写真の楽しさを学び、写真の世界を広げる実習を通して、写真文化拡大を担って頂く『写真のエキスパート』を増やしていく目的での「写真のエキスパートになろう～プリントコース～」講習会)は、新型コロナウイルスの影響で開催できなかった。

【新規プリンティング技術研究会】

・今年度は、セミナー企画が出来なかった。

【写真文化財(古写真)研究会】

・「古写真文化財(世界遺産級の乾板)の超精密デジタル画像復元に関する材料・システムの研究」を活動目的に定め、超精密デジタル画像復元に関するシステムの学会誌への投稿を行い、簡易型の画像復元装置の構築を進めている。

4. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款第 5 条(4))

4-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会、討論会などの実施

1) 東京写真月間 2021(2021 年 6 月 1 日写真の日を中心に 5 月～7 月に亘り開催される写真イベント:(公社)日本写真協会主催、日本写真学会以下 17 団体協賛)が実施された。

2) PHOTONEXT2021 技術アカデミー(2021 年 6 月 15 日(火)パシフィコ横浜 2F 会議室

E204: 日本写真学会・写真感光材料工業会共催、(株)プロメディア後援、(公社)日本写真協会、(一社)日本写真文化協会、(協)日本写真館協会、(一社)日本写真映像用品工業会、日本フォトイメージング協会協力)

3) 画像関連学会連合会は、日本画像学会、日本印刷学会、日本写真学会と IS & T 共催での画像に関する国際学会 ICAI2021(ICA I(International Conference on Advanced Imaging) 2021)を 2021 年 10 月 4 日～10 月 8 日にオンラインで実施した。

4) 第 58 回アイソトープ・放射線研究発表会(2021 年 7 月 7 日(水)～7 月 9 日(金)シンポジウム講演・討論、日本アイソトープ協会主催、日本写真学会他 29 学協会が協賛)をオンラインで実施した。

5) 第 17 回光機能性材料セミナー(2021 年 12 月 1 日、オンラインセミナー)「グリーンイノベーション ― 写真から光エネルギー変換へ ―」(協賛:日本化学会、応用物理学会、高分子学会、光化学協会、日本画像学会、電気化学会、有機合成化学協会、画像電子学会、日本光学会、照明学会、日本色彩学会、日本印刷学会、日本表面科学会、電気学会、色材協会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、日本オプトメカトロニクス協会、日本液晶学会)

6) 第 28 回カメラ技術セミナー(11 月 12 日にオンラインセミナー協賛:照明学会、映像情報メディア学会、電子情報通信学会、日本オプトメカトロニクス協会、電気学会、日本物理学会、日本印刷学会、日本機械学会、画像電子学会、日本画像学会、情報処理学会、精密工学会、応用物理学会、日本化学会 協賛)

7) 令和 3 年度画像保存セミナー(2021 年 11 月 19 日オンラインセミナー(講演動画配信+オンライン懇談会)およびアーカイブ配信、協賛:日本写真芸術学会/公益財団法人日本博物館協会、公益社団法人日本写真家協会日本写真保存センター、日本アーカイブス学会、文化遺産国際協力コンソーシアム、文化財写真技術研究会、情報保存研究会、一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会、画像電子学会、日本印刷学会、日本画像学会、協力:東京都写真美術館、後援:文化財保存修復学会)

9) メディカルイメージング連合フォーラム 2022(第 16 回 2021 年 1 月 25 日～27 日オンライン開催となった。

10) 西部支部 特別講演会&展示(2021 年 12 月予定、京都工芸繊維大学協力)は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止となった。

11) 日本写真学会・日本印刷技術協会リアル展示会&オンラインカンファレンス・セミナー(2021 年 2 月 2 日(水)～2 月 4 日(金) / 1 月 31 日(月)～2 月 10 日(木))

5. 研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第 5 条(5))

5-1 2021 年(令和 3 年)度学会賞の授与

2021 年 7 月 2 日オンライン授賞式において、2021 年(令和 3 年)度学会賞の授与を行った。学会賞受賞者は次の通りであった。

功績賞 甲田 謙一(日本大学)

功労賞 白山 眞理(日本カメラ財団)

功労賞 中川 邦弘(三菱製紙)

学術賞 今泉 祥子(千葉大学)

技術賞 村山 恭二・細谷 剛・田嶋 智之(OM デジタルソリューションズ)

技術賞 田中 康一・楠本 修也(富士フィルム)、水澤 哲也(富士フィルムソフトウェア)

論文賞 山本 大輔(足柄製作所)

論文賞 山田 勝実・常安 翔太・越地 福朗・内田 孝幸・佐藤 利文(東京工芸大学)

進歩賞 西尾 晃(名古屋大学)

進歩賞 吉本 雅浩(岐阜大学)

東陽賞 谷 忠昭(日本写真学会フェロー、元富士フィルム)

5-2 2021 年(令和 3 年)度コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励金(写真研究奨励金)授与

授賞式において、2021 年(令和 3 年)度コニカミノルタ写真研究奨励金の授与を行った。

交付対象者 岩崎 仁(日本写真学会フェロー、元京都工芸繊維大学)、細矢 剛(共同;国立科学博物館)

5-3 2021 年(令和 3 年)度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与

授賞式において 2020 年(令和 2 年)度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与を行った。

交付対象者 今泉 祥子(千葉大学)、貴家 仁志(共同)(東京都立大学)

交付対象者 穂本 光弘(山陽小野田市立山口東京理科大学)、福田 枝里子(共同)(九州産業大学)

5-4 2022 年(令和 4 年)度学会賞選考

2022 年(令和 4 年)度の学会賞は、各選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。

名誉賞 該当無し

功労賞 蒔田 剛 氏(キャノン)

功労賞 稲垣 由夫(日本写真学会編集委員、元富士フィルム)

学術賞 森島 邦博(名古屋大学)

技術賞 山本 大輔 氏(足柄製作所)

論文賞 柿 拓馬 氏・山田 勝実 氏(東京工芸大学)

進歩賞 六條 宏紀 氏(名古屋大学)

東陽賞 高田 俊二 氏(千葉大学、元富士フィルム)

会長表彰 該当無し

5-5 2022 年(令和 4 年)度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考

2022 年(令和 4 年)度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金は、選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。

交付対象者 酒巻 健司 氏(福島工業高等専門学校)

5-6 2022 年(令和 4 年)度日本写真学会小島裕研究奨励金交付対象者の選考

2022 年(令和 4 年)度日本写真学会小島裕研究奨励金は、選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。

交付対象者 常安 翔太 氏(大分工業高等専門学校)

6. その他目的を達するために必要な事項(定款第 5 条(6))

6-1 会務分担

役員及び会務の分担は次の通りであった。

なお、2020年度まで財務委員長などの要職を務めた甲田謙一前理事（日本大学）が病魔に襲われ、理事退任から間もない2021年8月に逝去されたことに哀悼の意を表する。

■理事：

会長（写真学会代表理事・画像連合会代議員）・医用画像部会長
中野 寧（コニカミノルタ科学振興財団）
副会長（写真学会代表理事）・編集委員長・企画実行委員長・100周年記念事業企画委員長
山田勝実（東京工芸大学）
副会長（写真学会代表理事・画像連合会代議員）・技術委員長・光機能性材料研究会主査
加藤隆志（富士フイルム）
総務理事・広報委員長・新ホームページ分科会主査

松澤良紀（OM デジタルソリューションズ）

西部支部長 池側隆之（関西学院大学）

西部副支部長・編集委員長（編集委員長は2022年3月より）

白石幸英（山陽小野田市立山口東京理科大学）

財務委員長 飯野裕明（東京工業大学）

財務副委員長 今泉祥子（千葉大学）

庶務委員長・進歩レビュー分科会主査・文化財写真保存ガイド

ライン検討G主査 吉田英明（OM デジタルソリューションズ）

年次大会実行委員長・科学写真研究会主査

久下謙一（千葉大学）

PHOTNEXT 技術アカデミー実行委員長 鈴木博文（ニコン）

画像保存部会長 大関勝久（名古屋大学）

画像保存研究会主査 山口孝子（東京都写真美術館）

デジタルアーカイブ研究会主査・リアリティー再現研究会主査

清野晶宏（IMAGICA Lab.）

写真文化拡大副委員長・写真技術セミナー実行委員長

西澤 敦（セイコーエプソン）

新規プリンティング技術研究会主査

郡司秀明（日本印刷技術協会）

秋季大会実行委員 砂川智英（三菱製紙）

天体写真技術研究会員・写真技術セミナー実行委員

蒔田 剛（キヤノン）

会勢拡大委員 吉田哲夫（名古屋大学）

年次大会実行委員 田中里実（日本大学）

■監事：

写真史研究会副主査 高田俊二（千葉大学）

画像入出力部会長、画像入出力研究会主査

豊田堅二（日本写真学会フェロー）

■フェロー（会務担当者のみ、役員を除く）

写真文化拡大委員長・「写真好き」のための定例講演会実行委員

委員長・CP+実行委員長 小林裕幸（千葉大学）

国際交流委員長・アンビエント技術部会長・アンビエント技術

研究会主査 半那純一（東京工業大学）

西部支部幹事・編集委員 岩崎 仁（元京都工芸繊維大学）

光機能性材料セミナー実行委員 谷忠 昭（元富士フイルム）

■幹事：

アンビエント画像部会長 津村徳道（千葉大学）

写真文化財（古写真）研究会主査 岩本康平（NEDO）

教育への写真応用研究会主査

鈴木敬子（神奈川県立近代美術館）

広報副委員長・新ホームページ分科会副主査

大川裕輔（千葉大学）

広報副委員長 桑山哲郎（千葉大学）

写真文化拡大副委員長 西垣仁美（日本大学）

写真技術セミナー実行副委員長 松下艶子（ニコン）

アンビエント技術研究会副主査 稲垣由夫（元富士フイルム）

アンビエント技術研究会副主査 宮本公明（元富士フイルム）

科学写真研究会副主査 中 竜大（東邦大学）

科学写真研究会副主査 森島邦博（名古屋大学）

アンビエント技術研究会員・光機能性材料研究会員・年次大会

実行委員 内田孝幸（東京工芸大学）

画像保存部会員・画像保存研究会員 高橋則英（日本大学）

画像保存研究会員・画像保存セミナー実行委員

白岩洋子（白岩修復工房）

写真技術セミナー実行委員 大川泰輔（セイコーエプソン）

科学写真研究会員・年次大会実行委員 福田 努（名古屋大学）

科学写真研究会員 河合 清（富士フイルム）

山下清司（筑波大学）

■事務局長（兼）会勢拡大委員長 山岸 治（日本写真学会）

（注）表現と技術研究会主査と写真史研究会主査は現在空席で、人選を検討中である。

6-2 総会（1回）

2021年（令和3年）5月18日（火）、（ホスト：日本写真学会事務局 東京工芸大内8号館1F マルチスペース）一般社団法人に移行後10回目の定時社員総会を、上記会場をホストとしてオンラインで開催した。2020年（令和2年）度事業報告、2020年（令和2年）度決算報告、2019年（平成31年）度会計監査報告、2020年（令和2年）度事業計画案、2020年（令和2年）度収支予算案、2021年（令和3年）度役員等の選任（臨時理事会による会長・副会長選任の報告含む）、会員の除名の計6件の議案が承認された。

6-3 理事会（7回）

隔月定例に開催し、本学会の運営に必要な事項を審議した。8月には役員研修会を同日開催した。

この他に、随時代表理事会を開催して、理事会に向けた準備や特定課題の検討を行なった。

◇役員研修会（2021年（令和3年）8月26日（火））

・役員研修課題：

- 『2022年ポストコロナの新しい日本写真学会活動について』～COVID-19感染症対応経験を踏まえて「2022年度学会活動の新しい様式」～
- 『2025年度日本写真学会創立100周年に向けた記念事業について』

～2023年東京工芸大学創立100周年、2024年写真誕生200周年とのコラボ検討～

今年度の研修会は、①ブレイクアウトルームを使用したチーム討議（参加役員を3チーム（各チーム4～5名）に分け、各チーム互選で決めたリーダーのもと研修課題に関して、全員が発言し、且つ自由闊達な議論を行うことにします。2022年度の活動に具体化できる施策・アイデアを結論とする様にまとめを行う。その後、②メインルームでの全員参加でも全体発表（各チームリーダーは、議論した内容を発表）と全体議論を行い、全体まとめを行った。

・質疑・まとめ

2022年ポストコロナの新しい日本写真学会活動について、以下の6項の課題化を行うこととなった。

- スマホ技術領域（HDR／多眼レンズ／ライダー／復元技術／3D等）を写真学会の新規主要技術領域にする。
- 「画像保存」領域拡大の為に、画像保存研究会／デジタルアーカイブ研究会主体に、ワークショップを新たに加えて活動する。又、ニーズ分析とターゲットの検討を行い、新しい技術研究や件数増加施策に結び付ける。
- 材料系研究会の今後の方向性について、「イメージング」の現代技術での再定義し、「情報像」に関する現在から未来に向けた普遍的な定義・総説を検討し、今後の学会材料系の方向性をつくる
- 「写真は何のために撮るのか」のテーマを議論していく場作り
- 年次大会発表者増と参加者増加の為に全体見直しの推進
- Web時代に対応する入会および参加勧誘方式と会員メリットの検討

6-4 支部の運営に関する会議

- 1) 西部支部企画委員会

西部支部活動として連合会秋季大会のイベント企画に関する協議を行った。

6-5 各委員会

- 1) 役員等選考委員会
役員等の選考を行った。
- 2) 人事委員会
学会職員の勤務状況と処遇についての協議を行い、来年度の処遇を決定した。
- 3) 庶務委員会
2020（令和2）年度事業報告並びに2021（令和3）年度事業計画案の総会承認を得た。2021（令和3）年度事業報告案並びに2022（令和4）年度事業計画案を作成し、理事会承認を得た。
- 4) 財務委員会（2回）
・2020年（令和2年）度末決算財務委員会を会場（ホスト）：日本写真学会 事務局で2021年4月27日に実施し、2020年（令和2年）度末決算と2021年度（令和3年）予算概要の報告と監事による監査を行った。
・2021年（令和3年）度中間決算 財務委員を会場（ホスト）：日本写真学会 事務局で2021年11月22日に実施し、2021年（令和3年）度中間決算と2021年度（令和3年）予算遂行状況の報告と監事による監査を行った。
- 5) 編集委員会（4回）
学会誌の編集方針、特集記事の企画検討、「解説」、「口絵」、「写真のある美術館・博物館・資料館」などの著者選定を行った。投稿論文の勧誘を行い、掲載論文数の増加を図った。英文論文誌 BSPIJ (BULLETIN OF THE SOCIETY OF PHOTOGRAPHY AND IMAGING OF JAPAN) を Web 版として発行した。
- 6) 技術委員会
本年度も引き続き新型コロナウイルスの影響があり、各研究会のイベント、セミナーも延期・中止を余儀なくされ、計画した具体的活動が停滞したことは否めない。その中でも、年次大会のオンライン開催を足掛かりとして、各研究部会においてオンライン講演会、オンラインセミナーを実施し、同時に各研究会での研究会活動の活性化のための議論を展開した。新型コロナウイルスの影響は今後も継続することが予想されるため、活動方針を代表理事会等において議論し、活動の方向づけを実施した。
- 7) 写真文化拡大委員会
新型コロナウイルスの影響により委員会傘下の各組織の活動は制限され、オンラインでの催しを検討した。その結果、「写真好き」のための定例講演会を2回開催することができた。
- 8) 企画実行委員会
代表理事会にて企画担当副会長も参加し、オンライン形式での学会賞授賞式や年次大会および合同秋季大会等の企画とスケジュールの作成ならび実行を検討した。
- 9) 国際交流委員会
ICAI2021（画像関連学会連合会主催）ICAI（International Conference on Advanced Imaging）2021を10月4日—10月8日にオンラインで行った。
ICAI2021 実行委員会で、写真学会発表募集と写真学会セッションの運営および写真学会会員の参加募集を行った。
ICAI2021への発表は11件、参加は15名となり、ICAI2021発表表彰では、ベストペーパー賞（1件）を日本写真学会所属宮本成悟氏他（東京大学）が受賞、ベストポスター賞（3件）中の1件を日本写真学会所属の白石幸英氏他（山陽小野田市立山口東京理科大学）が受賞し、発表内容の高い評価を受けることが出来た。
- 10) 広報委員会
年次大会、実行委員会、研究会などの活動への会員ないし該当委員の利用・運営範囲の拡大（活動成果、論文・解説記事の投稿と査読、学会誌・論文・手引き・解説書・作品などのコンテンツ発表・展示を目的に、日本写真学会ホームページ改革Ⅱ（実行委員会は、広報・編集・IT担当から構成；松澤広報委員長、

大川広報委員、岩本広報委員、山田元編集委員長、飯野 IT 委員長、白石編集委員長、山岸事務局長）を8月から開始した。

11) 会勢拡大委員会

会勢拡大委員会（代表理事会兼務）を代表理事会の議題として、会勢拡大・新規入会者増を念頭にした研究会活動およびイベント内容の検討を行った。

6-5 特務担当

- 1) 画像関連学会連合会
画像関連学会連合会代議員に代表理事2名（中野会長、加藤副会長）および山岸事務局長が幹事として参画して、本年は、合同秋季大会に変わり ICAI2021 の企画検討を行った。年画像関連連合会合同春季大会、ICAI2020（画像関連連合会国際会議）およびその他の連合会課題に関して、討議を行い、理事会承認の元に、連合活動を推進した。
- 2) 科学技術振興機構
科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業に基づいて、昨年度に引き続き、科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行った。
- 3) 日本写真学会100周年記念事業
2025年日本写真学会創立100周年事業の「テーマ」、「実行委員体制」、「100周年記念事業」の各案の検討を継続している。2023年東京工芸大学創立100周年および2024年写真誕生200周年の節目の時期に向けた東京工芸大学とのコラボレーションについては、東京工芸大学において創立100周年活動が開始され、当会との連携事業の協議を進めている。

7. 会勢

本年度末（2022年3月31日現在）における会員の異動状況は、次の通りである。

	本年度末 (2022年3月31日現在)	前年度末 (2021年3月31日時点)	増減
正会員	600名	643名	43名減
賛助会員	34社	34社	増減無し
購読会員	15社	16社	1社減
合計	649名	693名	44名減 以上

【第2号議案】2021年（令和3年）度決算案・会計監査報告案（P000 ページ参照）

【第3号議案】2022年（令和4年）度事業計画（案）

1. 基本方針（定款第4条）
- 1) 2020年度～2021年度に構築した新型コロナウイルス感染症に対応した新しい学会活動に対し、2022年度は、ウィズコロナ時代に即した学会活動を構築しつつ、写真学会創立100周年（2025年）記念事業をスタートする年度とする。イメージング技術領域とイメージング表現領域を大きな両輪としつつ、今までの100年からこれからの100年へ向けた新たなイメージング分野を取り入れた更なる進化と更なる領域の拡大を目指し、施策の展開を行う。
- 2) 事業収支改善のために研究講演事業、学会誌刊行事業、法人管理事業の確実な遂行により回復基調を継続的に実施できる事業計画の立案を行う。
- 3) 写真に関する基盤技術の深耕と基盤技術から更に次世代の画像情報分野への領域拡大の為に、①高度情報通信社会に適合する次世代のイメージング技術研究分野の材料系研究会の再編成、②写真産業を支える画像情報技術としての画像入出力部会、③写真文化拡大のための技術として写真文化拡大部会の6部会に天体写真技術研究会と科学写真研究会および新規立上げの写真文化財研究会、リアリティー再現研究会、写真史研究会・教育への写真応用研究会を加えた部会・研究会活動を通して会員拡大を行う。

これらの技部会活動推進の為、年次大会・研究会・セミナー・学会誌刊行・電子広報の充実及び画像関連学会連合会での所属学会との連携強化と関連する工業会・協会との連携強化を目指す。

- 4) 会勢拡大＝会員増加策を研究会および実行委員会単位で課題化し、施策展開を行う。
- 5) 写真及び画像に関する技術領域を拡大し、研究成果の発表及び関連情報提供の為、写真学会誌の充実と学術図書の刊行を行う。
- 6) 会員へのサービスを第一義としながら社会公益性の観点からも学会の運営を行う。ホームページおよび会員管理システムでの会員向け情報発信と会員サービスの向上を図る
2. 学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第5条（1））

2-1 学会誌の刊行

- 1) 学会誌を年間4冊発行する。
- 2) 年次大会や秋季研究報告会の要旨集を学会誌に掲載し発行する。
- 3) 論文投稿を積極的に勧誘し、親切的審査により質の高い論文を数多く掲載する。あわせて投稿料収入の増加を図る。

2-2 英文論文誌「Bulletin of the Society of Photography and Imaging of Japan」の刊行

- 1) 6、12月発行予定の英文の論文誌をweb誌として発行し、論文の投稿を積極的に呼びかける。
- 2) 英文誌の魅力を高め投稿数を増加させるため、掲載された論文をすぐにJ-Stageにアップロードし、DOIを得られるようにする。

3. 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条（2））

3-1 研究発表会、講演会などの実施

2020年度～2021年度に構築した新型コロナウイルス感染症に対応した新しい学会活動に対し、2022年度は、ウィズコロナ時代に即した学会活動を構築しつつ、写真学会創立100周年（2025年）記念事業をスタートする年度とする。イメージング技術領域とイメージング表現領域を大きな両輪としつつ、今までの100年からこれからの100年へ向けた新たなイメージング分野を取り入れた更なる進化と更なる領域の拡大を目指し、施策の展開を行う。

2021年度の役員研修会での、『2022年ポストコロナの新しい日本写真学会活動について』～COVID-19感染症対応経験を踏

まえて「2022年度学会活動の新しい様式」の議論を端に、以下の6つの課題化を行う中で、年次大会及び学術講演会での発表募集領域拡大を行う。

1. スマホ技術領域（HDR／多眼レンズ／LiDAR／復元技術／3D等）を新規主要技術領域にする。
2. 「画像保存」領域拡大の為に、画像保存研究会／デジタルアーカイブ研究会主体に、ワークショップを新たに加えて活動して、新しい技術研究や件数増加施策に結び付ける。
3. 材料系研究会の今後の方向性について、「イメージング」の現代技術での再定義し、『情報像』に関する現在から未来に向けた普遍的な定義・総説を検討し、今後の学会材料系の方向性をつくる
4. 「写真は何のために撮るのか」のテーマを議論していく場作り
5. 年次大会発表者増と参加者増加の為の全体見直しの推進
6. Web時代に対応する入会および参加勧誘方式と会員メリットの検討

- 1) 材料系研究会の今後の方向性について、「イメージング」の現代技術での再定義し、『情報像』に関する現在から未来に向けた普遍的な定義・総説を検討し、今後の学会材料系の方向性をつくる

- 2) PHOTONEXT2022技術アカデミー（2022年6月7日パシフィコ横浜）は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染防止策を講じて対面でのアカデミーを実施する。

- 3) 2022年次大会を、以下の様に既募集分野に広い範囲での新たなキーワードでの募集分野を取り入れたイメージング新規領域の設定で、更なる進化と更なる領域の拡大を目指した大会として実施する（開催予定：7月15～16日）。

本年度年次大会においては、日本写真学会の強みとする分野を鑑みて、これまでの区分から離れて、その特色から次の6つの分野に再編し、発表募集を行う。

1. 大きな宇宙から小さな粒子：宇宙科学と素粒子科学のイメージング（天体写真、原子核乾板、素粒子検出など）新規領域：非破壊検査
2. 光と画像が織りなすもの：光と画像の技術革新（光機能性材料、画像形成材料、カメラ、ディスプレイなど）新規領域：メタマテリアル、スマートフォン
3. 撮る画像と撮られる画像の文化と歴史：撮る人間の意識と、撮られた画像のその後（写真の表現と技術、感性、画像保存・アーカイブ・写真史など）
4. 変身する画像：IT技術との融合で変身する画像が作る新しい社会（写真画像の処理、写真画像評価など）新規領域：芸術との融合
5. 環境・安全・エネルギーとつながる光と画像：画像が見守る良い環境と安全な社会、画像が生み出す持続可能なエネルギー（リモートセンシング、セキュリティ、太陽エネルギーなど）新規領域：ドローンセンシング、フォトグラメトリ、LiDAR、水素社会イメージング
6. 心豊かな社会と写真画像：画像によって得られる健康と、画像が働きかける豊かな心が醸し出す生活（健康管理、写真セラピーなど）新規領域：介護、写真を用いた教育
- 4) 画像関連学会連合会は、ICAI2021後の連合会活動に立ち返り、2022合同秋季大会の検討、画像関連学会連合会発足時の「画像諸分野に関連する国内外の代表として活動する。」ことの確認、連合会内のイベントなどの開催情報の共有化、学会誌のアップストラクト集の発刊の再考などの議論を開始する。
- 5) 写真好きのための定例講演会・見学会を実施する。5回／年の実施を目標にしつつ、状況に応じた現実的な対応を図る。
- 6) 2022年度カメラ技術セミナー（2022年11月18日）を実施する。
- 7) 2022年度（令和4年度）第39回画像保存セミナー（2022年11月）を実施する。
- 8) 写真教育Lab★もっともっと写真のチカラを！（新規）の年3回開催を実施する。
- 9) 2022年第18回光機能性材料セミナーを実施する。

- 10) デジタルアーカイブワークショップ、画像保存・画像修復ワークショップ実施に向けた検討を開始する。
- 11) リアリティ研究会セミナーの実施に向けた検討を開始する。
- 12) スマートフォン技術講演会（仮称）実施に向けた検討を開始する。
- 13) 日本写真学会第3回写真好きのための講演・ワークショップの実施に向けた検討を開始する。
- 14) 2022年度画像関連連合会秋季大会を実施する。
- 15) 2022年度第18回光機能性材料セミナーを実施する。
- 16) メディカルイメージング連合フォーラム2023への参画を図る。
- 17) 印刷技術協会・写真学会共催イベントpage2023カンファレンス/プリントセミナーを実施する。
- 18) 天体写真技術研究会は、昨年3月実施予定であったイマジカ編集現場見学の再開時期の検討と今後の研究テーマの見直し・方向付けを研究会で行う。
- 19) 西部支部講演会については、合同秋季大会の実施状況を踏まえて、2022年度内（関西地区）の実施可能性の検討を行う。

3-2 新規事業

2021年度役員研修会での議論「2022年ポストコロナの新しい日本写真学会活動について」に基づいて課題化を行う中で、新規領域拡大活動を行う。

- (1) スマホ技術領域
- (2) 「イメージング」を現代技術において再定義し、『情報像』に関する現在から未来に向けた普遍的な定義・総説を検討し、今後の学会材料系の方向性をつくる中で、具体的な新規領域の検討
- (3) 「写真は何のために撮るのか」座談会から派生した新規領域検討
- (4) コロナで遅れている新規のリアリティ研究会セミナー（2022年2月）とデジタルアーカイブワークショップ（2022年度インフォーマージュ）の開催を再度目指す。
- (5) 画像保存・修復ワークショップの実施検討を行う。
- (6) 天体写真技術研究会の今後の研究課題の方向付けを行う。
- (5) 科学写真研究会
 - ・原子核乾板技術分野を核に科学写真系研究における活動基盤づくりを進め、学会内外への研究会活動の展開とセミナー等の講演研究事業の実施を企画する。年次大会、秋季大会および国際学会での発表、学会誌への投稿を関係者に促す。
 - ・原子核乾板に関連する内容のこれまでの学会発表を精査し、発表者への論文文化への支援を行って、学会誌への投稿を積極的に促す。一般論文に限定せず、原子核乾板調製の技術ノウハウなども文章化して、技術レポートへの投稿を促す。そのために日本写真学会誌に連載中の「飛跡を追う」の連載特集を継続し、その解説の執筆を依頼するとともに、特集への論文投稿を勧誘する。
 - ・原子核乾板に限定せず、放射線検出・素粒子検出の関連する協会分野の研究者への働きかけを強化し、融合を進めて、研究の活性化を図る。
- (6) 一昨年度に新設した「教育への写真応用研究会」は、今年度具体的な活動を行う。
- (7) 大学関係者の会員増活動の継続発展を行う。
 - ・各大学への投稿勧誘文書を作成し会長名で発行する様検討する。
 - ・DOI所得のための経費見直しを行うと共に、審査・投稿料軽減の価格を検討する。
 - ・年次大会・秋季大会や講演会・セミナー参加者への投稿勧誘策を検討する。

4. 研究及び調査の実施（定款第5条（3））

4-1 技術委員会専門研究会活動の実施

技術委員会の中に本学会の主要科学技術分野別の部会・研究会を設け、以下の活動を行うことにより、本学会会員の研究の発展と資質の向上並びに会員の増強をはかる。特に、本学会が取り組む技術分野の拡大・充実化並びに写真で培った基盤技術の深耕・展開と写真愛好家層への学会活動の充実をはかるために、一昨年に新設した写真史研究会、教育への

写真応用研究会の活動を写真文化拡大委員会と協働して活性化させる。

【画像入出力部会】

部会の研究会活動を活性化させる。

- ・画像入出力研究会：年次大会の企画・運営に参加する。
- ・カメラ技術研究会：年8回の研究会を開催する。「カメラ技術セミナー」を企画・運営する。学会誌の「2021年のカメラ」、「写真の進歩」などの執筆に協力する。年次大会の運営に協力する。
- ・表現と技術研究会：研究内容の検討を行う。

【アンビエント画像部会】

・アンビエント画像研究会：年次大会・秋季大会の企画・運営に参加する。

【医用画像部会】

・医用画像研究会：他の医用画像関係の学会とともにメディカルイメージング連合フォーラムを共催する。

イメージング新規分野の「心豊かな社会と写真画像」の中で健康管理、写真セラピー、介護などの領域の検討を行う。

【画像保存部会】

下記、2つの研究会とともに画像保存への取り組みを推進するとともに、学会HP、学会誌にて活動を広く周知する。特にHPの活用に重点を置く。

- ・画像保存研究会：2022年度画像保存セミナーを企画・実行する。勉強会・ワークショップ実施の準備を行う。
- ・デジタルアーカイブ研究会：デジタル画像の保存とその技術についての勉強会を実施し、急速に進展するデジタル分野の情報を収集、発信する。画像保存研究会と協力して、2022年度の画像保存セミナーを企画・実行する。昨年延期したカラーマネージメント関連のワークショップの2022年度（次年度）の開催を目指し検討する。

【アンビエント技術部会】

材料系研究会の今後の方向性について、「イメージング」の現代技術での再定義し、『情報像』に関する現在から未来に向けた普遍的な定義・総説を検討し、今後の学会材料系の方向性をつくる材料系アカデミアと企業研究者で検討を行い、年次大会を目標に具体化を行う。

・光機能性材料研究会

第18回光機能性材料セミナーを企画開催する。研究会の成果を学会誌に特集企画する。

【科学写真研究会】

原子核乾板技術分野を核とした活動基盤づくりを進め、放射線検出やその応用分野へ展開する。そのための学会内外への研究会活動の展開とセミナー等の講演研究事業の実施を企画する。年次大会、秋季大会および国際学会での発表、学会誌への投稿を関係者に促す。銀塩写真技術の専門家と原子核乾板利用者との技術交流を深める。

【天体写真研究会】

天体写真技術研究会は、学会員向けの「画像技術の原理を知って作品作りのレベルアップにつなげてもらうこと」を目指した研究会を実施している。昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、活動が出来なかったが、今年度は、今後の研究会の方向付けを再検討して、研究会課題の見直しとテーマの具体化を図る。

【写真史研究会】

活動体制の見直しを図り、日本写真学会年次大会への写真史・技術史研究発表、並びに、学会誌への論文投稿誘致を推進する。

【教育への写真応用研究会】

写真の力を再認識し、教育や福祉、医療への活用について研究を行う勉強会を開催する予定である。

名称：写真教育Lab★もっともっと写真のチカラを！

形式：オンラインゼミ（年2～3回程度開催）毎回指定された資料を読み、意見交換を行う。

定員：10名程度

参加資格：(一社) 日本写真学会会員 非会員は、2回まで無料で参加可能。3回目以降は写真学会への会員登録必須。
 第1回：令和4年 夏季休暇期間を予定 講師 調整中
 第2回：令和4年 冬季休暇期間を予定 講師 調整中
 第3回：令和4年 春季休暇期間を予定 講師 調整中

【リアリティー再現研究会】

昨年度実現に至らなかった研究会主催のセミナー・ワークショップの開催を検討し、会員に対しディスプレイメーカーからのアドバイスやカメラメーカーとの議論を通じ、スチル画像鑑賞のためのディスプレイの最適な設定について共有する場作りを行う。

【進歩レビュー分科会】：

専門分野別の年次レビュー「写真の進歩」作成を行い、学会誌上で報告し、学会ホームページに掲載する。

4-2 写真文化拡大委員会活動の実施

会員が気軽に写真表現、写真撮影の工夫などを学び、発表できる場を提供し、広く社会に写真文化の啓蒙および教育ができるような活動方法を検討し、実施する。

【「写真好き」のための定例講演会実行委員会】

写真文化拡大委員会の方針に則り、2012年から続く「写真好き」のための定例講演会（通算40回超）の参加者および新規対象者に興味を持って頂ける企画の充実化を図る。5回/年の実施を目標にする。

【PHOTONEXT 技術アカデミー実行委員会】

各社フラッグシップ機が登場するまで進化したミラーレスカメラシステムの技術紹介をはじめ、ユーザー視点での最新カメラの実力を総括するような講演を企画する。また、業務用途からプライベートまで活用できるインクジェットプリンターの解説、古くて新しいインスタントカメラの魅力、プロ写真家の作品作りから写真展開までのプロセス紹介など、幅広い層に魅力を感じていただける講演構成とする。共催の写真感光材料工業会や後援の(株)プロメディアと連携して講演プログラムの充実を図る。

【CP + 実行委員会】

日本写真学会単独ブースを依頼し、学会広報展示と学会活動のPRを行い、新規会員獲得の場とする。

【写真技術セミナー実行委員会（写真好きのためのワークショップ）】

写真文化拡大委員会の方針、すなわち「写真」の文化のより広い普及を担う人材（写真のエキスパート）の育成を目的とした講習会を2019年度に開催した。具体的には「写真」の基礎的理論や技術の学習、自分の作品をよりよくするためのプリント技術の実習、自分の写真作品の多くの人への展示を通して自身の写真の世界を広げるとともに写真の楽しさを知ってもらう講習会「写真のエキスパートになろう ～プリントコース～」として、「写真を作る」主体の写真好きのためのワークショップに「写真を観る」ことを加えた講習会を実施した。2022年度は、「写真のエキスパートになろう ～プリントコース～」の再開を検討する。

【新規プリンティング技術研究会】

デジタル印刷における最新の写真表現技術動向を基礎から応用まで解説するプリント技術セミナーを企画実施する。

【写真文化財（古写真）研究会】

古写真文化財（世界遺産級の乾板）の超精密デジタル画像復元技術に関する論文の投稿をベースに、研究奨励金を活用して復元設備の製作を行う。

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款第5条（4））

5-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会、討論会などの実施

- 1) 画像関連学会連合会（日本画像・日本印刷・画像電子・日本写真の各学会）代議員会を引き続き推進する。
- 2) PHOTONEXT 技術アカデミー（2022年6月7日、パシフィコ横浜、写真感光材料工業会共催、協力：(公社)日本写真協会、(一社)日本写真文化協会、(協)日本写真館協会、(一社)日本写真映像用品工業会、日本フォトイメージング協会）

- 3) カメラ技術セミナー（2022年11月18日）照明学会、映像情報メディア学会、電子情報通信学会、日本オプトメカトロニクス協会、電気学会、日本物理学会、日本印刷学会、日本機械学会、画像電子学会、日本画像学会、情報処理学会、精密工学会、応用物理学会、日本化学会14学協会協賛）
 - 4) 画像保存セミナー（2021年秋～冬）協賛：日本写真芸術学会、公益財団法人日本博物館協会、公益社団法人日本写真家協会日本写真保存センター、日本アーカイブス学会、文化遺産国際協力コンソーシアム、文化財写真技術研究会、情報保存研究会、日本オプトメカトロニクス協会、画像電子学会、日本印刷学会、日本画像学会、協力：東京都写真美術館、後援：人文化財保存修復学会 予定
 - 5) 光機能性材料セミナー オンラインで2022年12月に開催予定（日本化学会・応用物理学会・高分子学会他20学協会協賛）
 - 6) 「写真好き」のための工場見学/定例講演会（2022年度内に5回予定 詳細未定） 予定
 - 7) 西部支部講演会（2022年度内） 予定
 - 8) 科学写真研究会セミナー（2022年、詳細未定、名古屋大学・東邦大学・千葉大学他）
 - 9) プリント技術セミナー（2022年、詳細未定、日本印刷技術協会共催）
 - 10) 2022年度「写真のエキスパートになろう！」講習会（詳細未定、カメラ映像機器工業会・写真感光材料工業会協力）
 - 11) 第59回アイソトープ・放射線研究発表会（2022年7月6日～8日、オンライン、日本アイソトープ協会主催、日本写真学会や他学会と協賛）
 - 12) 天体写真技術セミナー（詳細不明（公社）日本天文学会、国立天文台等9団体協賛、(公社)日本写真協会、(一社)日本写真文化協会 協力)
 - 13) メディカルイメージング連合フォーラム2022（詳細不明、日本アイソトープ協会主催、日本写真学会共催）
 - 14) 第36回固体飛跡検出器研究会（詳細未定、固体飛跡検出器研究会主催、日本写真学会共催または協賛）
- 5-2 国際交流に関する事項
- 2024年 ICAI (The International Conference on Advanced Imaging (ICAI2024)) について、画像関連学会連合会で具体化検討を行う。
6. 研究の奨励および研究業績の表彰（定款第5条（5））
 - 6-1 2022（令和4）年度学会賞（功績賞、学術賞、技術賞、論文賞、進歩賞、東陽賞）の授与。
 - 6-2 2022（令和4）年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金の授与
 - 6-3 2022（令和4）年度小島裕研究奨励金の授与
 - 6-4 2023（令和5）年度学会賞（名誉賞、功績賞、功労賞、学術賞、技術賞、論文賞、進歩賞、東陽賞、会長表彰）受賞者の選考
 - 6-5 2023（令和5）年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考
 - 6-6 2023（令和5）年度小島裕研究奨励金交付対象者の選考
 - 6-7 名誉会員の推薦、永年会員の認証
 - 6-8 フェローの推薦と認定
 7. その他目的を達するために必要な事項（定款第5条（6））
 - 7-1 運営に関する会議
 第11回社員総会（2022年5月18日）、理事会（年7回）、役員研修会（年1回）、学会賞選考委員会（年1回）、学会賞授賞式（年1回）役員選考委員会（年1回）、代表理事会（年24回）、財務委員会（年2回）および庶務委員会、人事委員会（適時）、その他。
 - 7-2 編集委員会（年4回）
 学会誌の編集方針、内容の更新、特集・各種記事の企画、論文審査体制、著作権の整備などの検討を行う。平常業務は電子メールを活用し、委員間の意見交換を随時行う。会員からの学会誌に関する意見聴取につとめる。学会誌の電子ジャーナル化作業を引き続き行い、同時に投稿を呼びかける。英文論文誌の掲載

論文数を増加させるための方法を検討する。

7-3 技術委員会

定期的に各技術部会・研究会の代表者が集まり（電子メールによる会議含む）、オンライン会議による研究会の活性化及び活動状況等の情報交換を行う。又、研究会、講演会、セミナーなどをオンライン開催も含めて適宜開催し、広く本学会内外に活動状況を提示することにより、本学会における当該科学技術分野の向上を図る。さらに年次大会、秋季大会でのプログラム委員活動を通じて研究発表を活性化し、技術分野の偏在の解消を引き続き推進する。

最新の技術・開発動向を調査し、既存研究会での課題検討や新規領域に対応する新規研究会化などを検討する。また「技術者紹介サービス」を通して、当会の技術資産である賛助会員・個人会員の知識・経験を相互に生かす支援を行う。

7-4 写真文化拡大委員会

写真学会と一般の写真愛好家、写真関連大学を中心とした学生との交流を中心としつつ、カメラ好きの対象を広げていくべく活動を行っていく。委員会所属の研究会活動と講演会、見学会およびワークショップなど専門家以外の方々を対象にした企画を行い、参加者に写真学会の存在をアピールできる活動を行ってゆく。写真学会の専門性を活かし、一般人との垣根を低くする活動を行う。

7-5 企画実行委員会

新規技術領域の講演研究事業の企画ならびに実行推進にあたるため、今年度は、アンビエント技術研究会を主体イメージングの新規領域検討活動の中から、提案された新規領域活動の具体化と、昨年役員研修会での新規領域の具体化検討に会長、企画担当副会長、技術担当副会長が入り、今年度からの具体的な活動を開始した。今年度を新規領域活動のスタートとして、今後3年をかけて定着化を図る。

7-6 国際交流委員会

2024年 ICAI (The International Conference on Advanced

Imaging (ICAI2024)) について、画像関連学会連合会で具体化検討を行う。

7-7 広報委員会

日本写真学会ホームページ改革Ⅱ実行委員会で、システム設計仕様を作成し、これに準じたシステム設計を行い、年次大会を目標に進める。

7-8 会勢拡大委員会

会勢拡大施策の企画ならびに実行推進にあたるため、会長、企画担当副会長、技術担当副会長の代表理事からなる当委員会で、学会活動の立案と実行を通して会勢拡大の為の具体策の検討を図る。各種講演会、セミナーでの正会員勧誘に加え、役員主導の勧誘活動を行う。また、新規技術部会、研究会のメンバー拡大を図り、部会・研究会の活性化を図る。

7-9 画像関連学会連合会関連

画像電子学会、日本印刷学会、日本画像学会と日本写真学会の会長・副会長からなる2022年度の代議員会を適宜実施し、ICAI2021後の連合会活動に立ち返り、2022合同秋季大会の検討、画像関連学会連合会発足時の「画像諸分野に関連する国内外の代表として活動する。」ことの確認、連合会内のイベントなどの開催情報の共有化、学会誌のアブストラクト集の発刊の再考などの議論を開始することとした。

7-10 科学技術振興機構電子アーカイブ事業

科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業に基づく例年の作業として、科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行う。

7-11 日本写真学会 100周年記念事業

過去100年の学会の足跡とこれからの100年の展望をテーマとして、様々な記念事業を展開する。そのために本年度から本格的に事業内容を検討し始める。東京工芸大学100周年記念事業との連携を進める。

以上

【第4号議案】2022年（令和4年）度収支予算案（P000 ページ参照）

【第5号議案】2022年（令和4年）度役員等の選任（案）

- 1-1 新役員候補者（敬称略）
 - 1) 理事 10名
 今泉祥子（千葉大学）久下謙一（千葉大学）
 白石幸英（山陽小野田市立山口東京理科大学）杉田茂宣（キヤノン）（新任）
 砂川智英（三菱製紙）清野晶宏（IMAGICA エンタテインメントメディアサービス）
 山口孝子（東京都写真美術館）山田勝実（東京工芸大学）
 吉田英明（OM デジタルソリューションズ）吉田哲夫（名古屋大学）
 - 2) 監事 1名
 高田俊二（千葉大学）
 - 1-2 残留役員（敬称略）
 - 1) 理事 10名
 中野 寧（コニカミノルタ科学技術振興財団）加藤隆志（富士フィルム）
 飯野裕明（東京工業大学）池側隆之（関西学院大学）
 大関勝久（名古屋大学）郡司秀明（日本印刷技術協会）
 田中里実（日本大学）西澤 敦（セイコーエプソン）
 松澤良紀（OM デジタルソリューションズ）鈴木博文（ニコン）
 - 2) 監事 1名
 豊田堅二（写真学会フェロー）
- 参考
- 2. 令和4年度評議員
 - 1) 令和3年度委嘱 9名
 鈴木邦夫（三菱製紙）片岡撰哉（OM デジタルソリューションズ）（新任）
 村上直之（ニコン）有馬 登（三菱製紙）
 遠藤 仁（凸版印刷）（新任）阿部隆夫（信州大学）
 山田元茂（元三菱製紙）谷 忠昭（日本写真学会フェロー）
 吉野弘章（東京工芸大学）
 - 2) 残留評議員 14名
 古森重隆（富士フィルムホールディングス）江口俊哉（コニカミノルタ）
 戸倉 剛（キヤノン）五十嵐人志（セイコーエプソン）
 今井 亨（日本放送協会放送技術研究所）大野隆司（千葉大学）
 三宅洋一（千葉大学）久保田敏弘（京都工芸繊維大学）
 川崎三津夫（京都大学）酒井克之（東京工芸大学法人）
 島田文生（コニカミノルタ科学技術振興財団）高田俊二（千葉大学）
 義江龍一郎（東京工芸大学）原 直久（元日本大学）
 - 3. 幹事：24名
 稲垣由夫（元富士フィルム）岩本康平（元セイコーエプソン）
 内田孝幸（東京工芸大学）大川泰輔（セイコーエプソン）
 大川裕輔（千葉大学）河合 清（富士フィルム）
 桑山哲郎（3D フォーラム）白岩洋子（紙本修復家）
 鈴木敬子（神奈川県立近代美術館）高橋則英（日本大学）
 津村徳道（千葉大学）中 竜大（東邦大学）
 西垣仁美（日本大学）福田 努（名古屋大学）
 松下艶子（ニコン）宮本公明（元富士フィルム）
 森島邦博（名古屋大学）山下清司（筑波大学）
 青木貴嗣（富士フィルム）（新任）有賀智子（九州大学）（新任）
 越地福朗（東京工芸大）（新任）宮本成悟（東京大学）（新任）
 秦 慎一（山陽小野田市立山口東京理科大学）（新任）
 - 4. 西部支部：6名
 池側隆之（関西学院大学）白石幸英（山陽小野田市立山口東京理科大学）

- 岩崎 仁（元京都工芸繊維大学）佐藤 慈（九州産業大学）
 安藤千穂子（京都工芸繊維大学）植松道治（パナソニック）
- 5. フェロー：9名
 金田英治（元副会長）小林裕幸（元会長，千葉大学名誉教授）
 谷 忠昭（元会長，元富士フィルム）三宅洋一（元会長，千葉大学名誉教授）
 岩崎 仁（元西部支部長）半那純一（東京工業大学名誉教授）
 豊田堅二（元副会長，元日本大学）（新任）桑山哲郎（3D フォーラム）（新任）
 蔭田 剛（元キヤノン）（新任）

【第6号議案】会員の除名

定款第10条により，6名を除名とする。

以上

【第2号議案】2021年（令和3年）度決算報告（案）

貸借対照表
2022年 3月31日現在

一般社団法人 日本写真学会				(単位:円)		
科 目				当年度	前年度	増 減
I 資産の部						
1. 流動資産						
	現金預金			7,707,325	6,069,980	1,637,345
	未 収 会 費			3,611,627	3,822,627	△ 211,000
	未 収 金			343,573	332,573	11,000
	前 払 金			64,000	0	64,000
	前 払 費 用			44,000	0	44,000
	流動資産合計			11,770,525	10,225,180	1,545,345
2. 固定資産						
(1) 基本財産						
	定期預金			27,000,000	27,000,000	0
	基本財産合計			27,000,000	27,000,000	0
(2) 特定資産						
	普通預金			1,495,406	1,998,472	△ 503,066
	特定資産合計			1,495,406	1,998,472	△ 503,066
(3) その他固定資産						
	電話加入権			74,984	74,984	0
	その他固定資産合計			74,984	74,984	0
	固定資産合計			28,570,390	29,073,456	△ 503,066
	資産合計			40,340,915	39,298,636	1,042,279
II 負債の部						
1. 流動負債						
	未 払 金 用 費			42,570	111,165	△ 68,595
	未 払 費 用			94,776	0	94,776
	預 り 金			83,568	91,454	△ 7,886
	前 受 会 費			102,000	42,000	60,000
	流動負債合計			322,914	244,619	78,295
	負債合計			322,914	244,619	78,295
III 正味財産の部						
1. 指定正味財産						
	指定正味財産合計			0	0	0
	(うち特定資産への充当額)			(3,503,829)	(3,503,829)	(0)
2. 一般正味財産						
	一般正味財産合計			40,018,001	39,054,017	963,984
	(うち基本財産への充当額)			(27,000,000)	(27,000,000)	(0)
	正味財産合計			40,018,001	39,054,017	963,984
	負債及び正味財産合計			40,340,915	39,298,636	1,042,279

正味財産増減計算書
2021年 4月 1日から2022年 3月31日まで

一般社団法人 日本写真学会		(単位:円)		
科 目	当年度	前年度	増 減	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	[547]	[22]	[525]	
基本財産受取利息	547	22	525	
受取会費	[8,373,500]	[9,380,750]	[△ 1,007,250]	
正会員受取会費	4,275,500	4,928,750	△ 653,250	
賛助会員受取会費	4,098,000	4,452,000	△ 354,000	
事業収益	[1,644,814]	[607,000]	[1,037,814]	
講演・研究事業収入	1,644,814	607,000	1,037,814	
受取寄付金	[600,000]	[600,000]	[0]	
受取寄付金	600,000	600,000	0	
雑受取利息	[1,034,740]	[701,202]	[333,538]	
受取利息	2,229	2,424	△ 204	
広告費	248,000	134,000	114,000	
別刷・投稿料代	518,403	132,800	385,603	
雑収	266,117	431,978	△ 165,861	
経常収益計	11,653,601	11,288,974	364,627	
(2) 経常費用				
事業費	[4,652,761]	[3,972,073]	[680,688]	
学会誌等刊行事業費	(2,911,922)	(2,476,822)	(435,100)	
印刷製本費	2,911,922	2,396,223	515,699	
雑	0	80,599	△ 80,599	
講演研究事業費(1)	(379,290)	(103,970)	(275,320)	
通信運搬費	2,131	0	2,131	
消耗品費	1,152	0	1,152	
諸謝金	333,898	100,230	233,668	
印刷製本費	5,810	0	5,810	
雑	36,299	3,740	32,559	
奨励助成事業	(1,112,910)	(1,083,914)	(28,996)	
奨励助成金	1,112,910	1,083,914	28,996	
給料手当	228,806	262,883	△ 34,077	
旅費交通費	10,168	20,056	△ 9,888	
福利厚生費	9,665	24,428	△ 14,763	
管理費	[6,036,856]	[6,621,018]	[△ 584,162]	
給料手当	(3,545,779)	(3,720,189)	(△ 174,410)	
事務員給当	3,545,779	3,720,189	△ 174,410	
会費負担金	0	122,031	△ 122,031	
旅費交通費	(155,648)	(283,824)	(△ 128,176)	
事務員交通費	155,648	283,824	△ 128,176	
通信運搬費	941,663	864,859	76,804	
租税公課	70,798	70,361	437	
消耗品費	195,474	64,210	131,264	
福利厚生費	(148,633)	(345,703)	(△ 197,070)	
法定福利費	148,633	345,703	△ 197,070	
貸借料	146,520	146,520	0	
諸謝金	396,000	561,000	△ 165,000	
印刷製本費	530	1,400	△ 870	
事務所維持管理費	360,000	253,328	106,672	
雑	75,811	187,593	△ 111,782	
経常費用計	10,689,617	10,593,091	96,526	
評価損益等調整前当期経常増減額	963,984	695,883	268,101	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	963,984	695,883	268,101	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	963,984	695,883	268,101	
一般正味財産期首残高	39,054,017	38,358,134	695,883	
一般正味財産期末残高	40,018,001	39,054,017	963,984	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	40,018,001	39,054,017	963,984	

財産目録

令和4年 3月31日現在

一般社団法人 日本写真学会

貸借対照表科目		場所・物置等	使用目的等	(単位:円)
(流動資産)	現金			(275)
	現金	本部手許有価	運転資金として	275
	現金	支部手許有価	運転資金として	0
	預金			(7,707,050)
	普通預金	三菱東京UFJ銀行/新宿中央4519541(本部)		3,249,866
		みずほ銀行/中野坂上1809687(本部)		4,851
		三井住友銀行/中野坂上4174418(浦用口)		270,281
		京都中央信用金庫/長岡927706(支部)		0
		三菱UFJ信託銀行/新宿2746816(杉浦氏)		127,161
		みずほ銀行/中野坂上1917722(写真工学)		395
		三井住友信託/新宿 5401808(杉浦氏)		139
		ゆうちょ銀行/東京 地方貯金庫00130-6-7281		4,014,982
		外貨預金三菱東京UF J/新宿中央3074454		39,375
	未収会費			(3,611,627)
	正会員会費			3,568,627
	賛助会員会費			43,000
	未収入金			(343,573)
		学会誌投稿料・広告料等		343,573
	前払金			(64,000)
	前払費用			(44,000)
		しゅくみねっと前		44,000
流動資産合計				(11,770,525)
(固定資産)	基本財産			(27,000,000)
	定期預金			10,000,000
		三菱東京UFJ銀行/新宿中央4519541(本部)		10,000,000
		みずほ銀行/中野坂上6323138(本部)		5,000,000
		三菱UFJ信託/新宿26802009(杉浦氏)		10,000,000
		三井住友信託銀行/新宿7543251-01(杉浦氏)		2,000,000
	特定資産			(1,495,406)
	普通預金			1,495,406
		みずほ信託/新宿4439856(小島裕氏基金)		1,495,406
	その他固定資産			(74,984)
	電誌加入権			74,984
固定資産合計				(28,570,390)
資産合計				(40,340,915)
(流動負債)	未払金			(42,570)
		日本印刷術	印刷費	0
		その他		42,570
		富士ゼロックス	コピーカウンター	0
		朝日ビジネスサービス	顧問料、業務委託料	0
	未払費用			(94,776)
		三井住友カード		7,480
		富士フイルム/しゅくみねっと前	印刷費他	1,650
		しゅくみねっと前		44,000
		新宿年金事務所	社会保険料	12,792
		通信科他		28,854
	前受金			(102,000)
	預り金			(83,568)
		朝日コーポ	2014年度購読料	14,760
		中野税務署	源泉所得税	68,808
		中野年金事務所	社会保険料(従業員預り分)	14,760
		仮受金	掛入金分	(0)
流動負債合計				(322,914)
負債合計				(322,914)
正味財産				(40,018,001)

【第4号議案】2022年（令和4年）度収支予算案

収支予算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

一般社団法人 日本写真学会
会長 中野 寧 殿

私たち監事は、当法人の令和3年4月1日から令和4年3月31日までの令和2年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律99条第1項（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律197条において準用する同法第99条第1項）及び一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第36条及び第45条（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第64条において準用する同規則第36条及び第45条）の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行について報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧し、当協会の主たる事務所において業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書を監査しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について監査しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当協会の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当協会の財産及び損益の状況を全て重要な点において適正に表示しているものと認めます。

令和4年4月27日

監事 高田 俊二



監事 豊田 堅二



一般社団法人 日本写真学会	科目	予算額	前年度予算額	増減
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用利息		[22]	[593]	[△ 571]
受取利息		22	593	△ 571
受取会費		[8,855,250]	[8,841,000]	[△ 14,250]
正会員受取会費		4,563,250	4,525,500	37,750
賛助会員受取会費		4,292,000	4,315,500	△ 23,500
事業収益		[3,900,000]	[3,566,000]	[△ 334,000]
講演・研究事業収入		3,900,000	3,566,000	334,000
受取寄付金		[600,000]	[600,000]	[0]
受取寄付金		600,000	600,000	0
雑収入		[753,224]	[874,366]	[△ 121,142]
受取利息		2,424	1,366	1,058
広告費		178,000	173,000	5,000
別刷・投稿料代		132,800	200,000	△ 67,200
雑収入		440,000	500,000	△ 60,000
経常収益計		14,108,496	13,881,959	226,537
(2) 経常費用				
事業費		[7,731,000]	[7,107,000]	[△ 624,000]
学会誌発行事業費		(3,600,000)	(3,370,000)	(230,000)
事務刊行費		10,000	0	10,000
学会誌送付費		300,000	300,000	0
交際費		0	30,000	△ 30,000
印刷製本費		3,000,000	3,000,000	0
雑費		20,000	20,000	0
J-S-T-A-G-E編集費		250,000	0	250,000
審査校正料		20,000	20,000	0
講演研究事業費(1)		(2,737,500)	(2,210,000)	(527,500)
給料手当		93,000	176,000	△ 83,000
旅費交通費		344,000	273,000	71,000
会場費		178,000	191,000	△ 13,000
通信運搬費		148,000	60,000	88,000
会議費		172,000	172,000	0
消耗品費		2,000	20,000	△ 18,000
諸謝金		818,000	768,000	50,000
印刷製本費		255,000	333,000	△ 78,000
雑費		88,000	39,000	49,000
参加者会合費		639,500	178,000	461,500
講演研究事業費(2)		(0)	(135,000)	(△ 135,000)
通信運搬費		0	95,000	△ 95,000
諸謝金		0	40,000	△ 40,000
奨励助成事業金		(1,084,000)	(1,082,000)	(2,000)
奨励助成金		1,084,000	1,082,000	2,000
新規研究・事業運用準備金		265,000	0	265,000
給料手当		0	290,000	△ 290,000
旅費交通費		20,000	20,000	0
福利厚生費		24,500	0	24,500
管理費		[6,709,734]	[6,774,000]	[△ 64,266]
給料手当		(3,800,000)	(3,800,000)	(0)
事務員給料		3,800,000	3,800,000	0
会費負担金		122,031	214,000	△ 91,969
旅費交通費		(385,000)	(410,000)	(△ 25,000)

科目	予算額	前年度予算額	増減
事務員交通費	385,000	385,000	0
役員交通費	0	25,000	△ 25,000
通信運搬費	665,000	865,000	△ 200,000
租税公課	70,500	74,000	△ 3,500
消耗品費	100,000	100,000	0
福利厚生費	(345,703)	(346,000)	(△ 297)
法定福利費	345,703	346,000	△ 297
貸借料	140,000	140,000	0
諸謝金	550,000	385,000	165,000
印刷製本費	1,500	0	1,500
事務所維持管理費	360,000	360,000	0
雑費	170,000	80,000	90,000
経常費用計	14,440,734	13,881,000	559,734
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 332,238	959	△ 333,197
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 332,238	959	△ 333,197
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 332,238	959	△ 333,197
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	△ 332,238	959	△ 333,197
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高			
	△ 332,238	959	△ 333,197

一般社団法人 日本写真学会 第111回定時社員総会議事録

- 1. 開催日時：2022年（令和4年） 5月19日（木） 15：00～16：00
- 2. 会 場：日本写真学会 事務局
〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 東京工芸大内 8号館1Fマルチスペース 8103
- 3. 議決権を有する代議員総数
25名
- 4. 議決権を有する出席代議員数
22名（本人出席：7名、委任状：15名）
- 5. 出席代議員
大川泰輔、酒谷孝次、平井勇、森田晃、福田努、森島邦博、宮本成悟
- 6. 出席役員および役員候補者
理事：中野寧、山田勝実、加藤隆志、飯野裕明、今泉祥子、大関勝久、久下謙一
郡司秀明、田中里実、鈴木博文、清野晶宏、砂川智英、西澤敦、杉田茂宣
松澤良紀、山口孝子、吉田哲夫、吉田英明
監事：高田俊二、豊田堅二
- 7. 議事録作成者
事務局：山岸治
- 8. 議事の経過の要領及びその結果
会長の中野寧は、定款第17条の規定により、議長となり開会を宣言し、定款第19条の規定により、上記のとおり、定足数に足る代議員の出席があったので、本社員総会は適法に成立した旨を報告し、議事に入った。
ついで議長は、定款第21条の規定により、議事録署名人を指名したい旨を述べ、加藤隆志氏および山田勝実氏を選任したい旨を述べた。その賛否を議場に諮ったところ満場異議なく、これに賛成した。
ついで議長は、定款第14条の規定により、以下の第1号議案から第7号議案の報告及び説明と決議を行うことを宣言した。

第7号議案 会員の除名

議長は、定款第11条の規定により、6名の会員資格を喪失する事を説明し、その賛否を議場に諮ったところ満場異議なく、これを承認可決した。

以上をもって本総会における報告及び全議案の審議を終了したので、議長は午後16時00分に閉会を宣した。

上記議事の経過及びその結果を明確にするため本議事録を作成し、定款21条により、議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

2022年（令和4年） 5月19日（木）

一般社団法人 日本写真学会 第111回定時社員総会

議 長 中野 寧



議事録署名人 加藤 隆志



議事録署名人 山田 勝実



- 第1号議案 2021年（令和3年）度事業報告の件
議長に指名された吉田英明庶務委員長は、2021年（令和3年）度の事業実施報告を説明し、その内容を報告した。
- 第2号議案 2021年（令和3年）度決算報告・会計監査報告
議長に指名された飯野裕明財務副委員長は、令和2年度の決算報告書にて収支決算を報告し、財務監査および決算書作成時に会計士資格保有の専門家の確認がされているかについて、朝日税理士法人で確認している旨の質疑を行った後、高田俊二監事から監査の結果正鵠なることを認める監査報告があり、その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。
- 第3号議案 2022年（令和4年）度事業計画案の件
議長に指名された吉田英明庶務委員長は、2022年（令和4年）度の事業計画案を説明し、その内容を報告した。その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。
- 第4号議案 2022年（令和4年）度収支予算案の件
議長に指名された飯野裕明財務副委員長は、2022年（令和4年）度収支予算書にて、2022年（令和4年）度収支予算案を説明し、その内容を報告した。その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。
- 第5号議案 2022年（令和4年）度役員等の選任
議長は、定款第23条の規定により、2022年（令和4年）度の改選役員候補の理事及び監事案の議事を行うことを宣言し、加藤隆志役員選考委員長は、2022年（令和4年）度の改選役員候補の理事及び監事案を説明し、その改選を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。

新任理事（1名）：杉田茂宣
再任理事（9名）：今泉祥子、久下謙一、白石幸英、砂川智英、清野晶宏、山口孝子、山田勝実、吉田英明、吉田哲夫
残留理事（10名）：飯野裕明、池側隆之、大関勝久、加藤隆志、郡司秀明、鈴木博文、田中里実、中野寧、西澤敦、松澤良紀、
再任監事（1名）： 高田 俊二
残留監事（1名）： 豊田 堅二